



卓 話



イニシエーションスピーチ

篠田 庸介会員

四谷ロータリークラブに参加してまだ日が浅いのですが、色々刺激を頂いて感謝しております。これから多くの方から、良い影響を受け未来につなげて行ければと期待しております。そして、私自身も僭越ながら何かしらロータリークラブに必要な存在として貢献出来ればと思います。その為にも、私自身を知って頂く場としてこの機会を有効に活用させて頂ければ幸いです。



私は1968年4月5日に東京都青梅市の山間にて生まれました。父は高校で教鞭をとり、母は専業主婦でした。家の前には川が流れ平地も少ない片田舎です。最寄りの駅まで歩くと大人でも1時間半はかかります。家もまばらにしかなく、幼少の頃は家で飼っていた犬とヤギくらいしか友達がいませんでした。

小学生の頃は父の教育方針からテレビが家に無く、毎日読書に没頭しておりました。暇を持て余し、一日一冊程度は学校の図書館の本などを読んでいたように思います。それが、中学生まで続きます。その頃の読書が現在の私の性質の基礎となっているので、父には非常に感謝しております。

中学生から高校まではサッカーに明け暮れる毎日でした。Jリーグも始まるタイミングでしたので、プロも一時期は目指しましたが、技能不足と怪我の為に諦めました。柔道も小学校二年生の時から高校まで続け、一応有段者でもあります。

実家には先祖から受け継いだ土地があります。私が小学生の頃、父は梅林を潰してテニスコートを作り、人に貸し出す事業を始めました。手作りで作ったものですから、私も整地などにかかり出されました。バケツ一杯小石を拾うと二百円ほどお小遣いももらったので、臨時収入になりました。ブームにのり、それなりの利益も上がったようです。テニスコートに来たお客さんに山で拾った栗やタケノコを売りお小遣いを稼いだりしておりました。この頃に商売人としての芽が育ったのかもしれない。

勉強は大嫌いでしたので、高校も大学も学校の授業だけで入れる所に行きました。私の大学時代と言えばバブル経済の頂点でした。就職先は選び放題でしたが、そのまま就職することに希望を見いだせなかった私は、とある経営者との出会いをきっかけに事業の道を目指し、最終的には大学を中退し、企業の創業に参加しました。

宝飾品などの卸売りの仕事が私の社会人としての入口でした。職種は営業です。立ち上がり時期だったので、給与も歩合でした。月給二万円程度で二年ほど過ごしました。その内、営業も覚え、社員数も三百人程度の規模になりました。私自身もその頃にはトップセールとして会社を支えるようになっていました。バブル経済の終演の時期に、財務的な弱さから、その会社も斜陽を迎え、私が26歳の時に倒産しました。企業の成長から、衰退、倒産を内部で体験しました。

倒産後は、今更会社に勤めようにも学歴も無く、両親にも大口を叩いて家を出て事業の道に進んだので、次の創業を狙うしか道はありませんでした。数名の仲間と事業を興し、私はやはり営業担当として会社の収益を支えました。会社は順調に伸びましたが、創業メンバーが利害によってのみ繋がっていた為でしょうか、方向性の違いがいずれ顕著になり、私自身の理想の為にその企業を退任し29歳の時に社長業がスタートしました。

それからは営業力にもものを言わせ、貿易、物流、不動産の事業なども行い、いくつかの企業を運営してまいりました。31歳の時に現在の職業である、システム開発に取り組みはじめ、今に至ります。

家内とは28歳の時に出会い、31歳で結婚いたしました。結婚当時は亭主関白を宣言し、強気な亭主でしたが、子供が出来たのと同時に主導権は全て取られ、立場は逆転しております。皿洗いから、ゴミ出し、ペットの世話、お風呂の掃除などもこなすコンビニエンスな夫として頑張っております。家庭内では最後に眠りにつき、最初に起きて仕事に行く生活が続いております。子供は四歳の男の子です。あまり子供好きでは無かったのですが、今は何者にも代え難い存在として、我が子を愛してやみません。この子の為にも尊敬できる父親であろうと思います。

イニシエーションスピーチ

安岡 伸二会員

☆子供の頃

私は1957年（昭和32年2月）岩手県岩手郡西根町寺田という田舎に生まれました。現在は市町村合併で地名も岩手県八幡平市となり「岩手のどのへん？」と聞かれましたら、いつも「盛岡の北の渋民村（石川啄木生誕の地）のさらに北の山の中です」と答えませんが、通じているかわかりません。

さてその西根小学校に入学した後、父親の仕事の関係で一方井小学校、岩泉小学校、青森弘前小学校、福島吉井田小学校、福島中学校、宮城白石中学校、岩手厨川中学校、盛岡工業高等学校建築課入学、静岡沼津工業高等学校建築課卒業と、10回以上の転校、転入を繰り返すことになりました。

実はこのスピーチを書いている時も思い出せない小学校があったような気がします。その間「イジメ」もありましたが、現在のような陰湿ではありませんでした。同じ学年中に転校する事になった時もみんな送ってもらいました。最短の滞在期間は3ヵ月というのもあり、同窓会に未だ行ったことがありません。何故なら短すぎて行方不明になっているのです。

1975年（昭和50年）オイルショック後の年で就職難でもあり、当時友人と鉄建工業、東海工業他3社程回りましたが大卒優先でありました。そんな時に沼津の建築課を卒業して大成建設設計部に入社後独立していた武藤という人が、初めて大卒でなく高卒の新社員募集を学校に出しており、すぐ面接してもらい入社することに決まりました。

☆設計事務所の頃

武藤設計は当初横浜の石川町にあり、大成建設設計部からの下請けの事務所でしたが、翌年に東京目黒区に事務所を構えてサッポロビールさんの仕事を受注するようになりました。それは大成時代に仙台の工場建設で知り合った、サッポロのエンジニアリング部の課長さんが横浜に訪ねてからの事でした。その頃サッポロさんは大手建設会社に設計施工を入札決定して居りましたが、設計事務所を入れての入札になりますとコストが30%も抑えられたとENG部担当者の比較が生まれて、その後さまざまな仕事が来るようになりました。

ビール製造関連の設計から保養所、寮、ライオンレストランの設計、スポーツジム施設、中でも雑誌



「商店建築」に掲載されましたのが、昭和59年恵比寿工場が現在の「恵比寿ガーデンプレイス」に再開される前に、引き込み線にブルートレインを入れて列車レストランに改装し、大麦倉庫を同じくレストランに改装した「ビアステーション」と名前をつけた設計でした。私の役割は詳細図の設計と対役所調整、近隣説明等、一番面倒なところでした。現在のYGPにあります「ビアステーション」は久米設計さんです。

☆新会社の設立

その後バブル崩壊、ビール大手4社のサッポロさんの順位の下落、そして個人的な話ですが、1997年（平成9年7月）子供が中学2年の時に妻が劇症脳内出血、40歳で他界しました。

このままでは仕事も精神的にもダメになると思い、親しくしていた下請けさんと一緒に立ち上げたのが、株式会社 オムニバス プランニングであります。余談ですが、落ち込んでいたその頃、脇で一緒に飲んでいたのもミスターカイトルでありました。会社名の「オムニバス」とは「乗合バス」のことです。一人の力は知れていますが、みんなの力を集めて同じ方向に（目標に）向かっていこうという意味で付けました。

2001年5月に正式立ち上げし、店舗設計施工、特殊補修施工、特殊フィルム施工（恵比寿ガーデンプレイス(株)タワー棟の断熱フィルム施工）他実績を重ねてまいりました。

☆ロータリー入会

2008年に妻が他界して11年経ち、1月1日新しい妻を入籍いたしました。

ミスターカイトルから「そろそろロータリーに入りなさい、長い間オヌシを見て十分ワカッタから」と言われ、経営者としての勉強や素養を勉強させていただきたく入会させていただくことになりました。3月27日に入会バッチをいただいた後の卓話「チベットの現状」に大変感動して涙を流し、又「新古典文庫」の目から鱗といった話等、ミスターカイトルも「自分はこのロータリーが大学です」と話してますが、同じ気持ちになります。

先日京王プラザにて「岩手県人会」に初めて参加しました。ロータリアンになって初めて行こうと思ったのです。もちろん「ロータリーバッチ」を付けてです。その席で私のバッチを見て、「私も岩手のロータリアンですよ」と、すぐに何の説明もなく仲間入りさせていただきました。

本当に四谷ロータリーに入らせていただき「ありがたい」と心から思っております。今後とも皆様のご指導をよろしくお願い申し上げ、私のイニシエーションとさせていただきます。重ねてありがとうございます。